

「シノツカ・ソーラーカー・チーム」設立を正式発表

「シノツカ・ソーラーカー・チーム」ソーラー・チャンレジ2012」(9月17-29日=南アフリカ)に参戦後、ソーラーカーの最高速記録に挑戦し、ギネス記録(時速88.8km)更新を目指す。

また、国内でも「ソーラーカーレース鈴鹿」(8月3-4日=三重県・鈴鹿サーキット)にも参戦する。ラリーで一時代を築いた篠塚が、ソーラーカーで再び世界の頂きに立つ覚悟だ。(ペン&カメラ=田村尚之)

ソーラーカーで世界の頂へ

マシンに乗り込み表情を引き締める篠塚



「エネルギー問題考えると一生の仕事に」

自分で企画書

人生の峠を過ぎて篠塚のチャレンジ精神は旺盛だ。ライフワークにもなっていたダカールラリーがアフリカ大陸を離れてからは、ソーラーカーにどっぷりハマってきたが、ついに自らのチームを作り、ギネス記録に挑戦するプロジェクトまで立ち上げてしまった。

「ソーラーカーとは偶然2008年に出合ったが、CO₂やエネルギー問題を考えると、一生の仕事になると思った」と篠塚。母校・東海大のソーラーカープロジェクトにアドバイザーとして加わり、国際大会4連覇の実績を残したが、今度はライフワークとして心血を注ぐチームを一から作ってしまった。いくら流行のエコロジーのソーラーカーとはいえ、今や世界的に厳しい経済環境下、そう簡単にチームなど設立できるわけではないが、篠塚は思い立ったら即行動の人。「三菱(自動車社員)時代から鍛えられて

★チーム体制 代表兼ドライバーを篠塚が務める「シノツカ・ソーラーカー・チーム」の車両製作や運営母体は「静岡ソーラーカークラブ」となる。同クラブの山田修司代表がチーム監督を務め、クラブ員の大島健一(エンジン兼ドライバー)、塩川祐樹(エンジン)、赤石崇(マネージャー)らがチームに名を連ねる。また、鈴鹿戦のドライバーには、スパー耐久などに参戦している堀主知ロバートを起用する予定だ。

15日に山梨で行ったシェイクダウンでは徐々にスピードを上げ、上々の手応えを得た。①チーム発足を正式発表した「シノツカ・ソーラーカー・チーム」



いるから、すぐに自分で企画書を作って、東芝さんなどに向かいました」そして、「勝つためにはどうしても必要だった」という世界一の変換効率22.6%を誇る太陽光パネルを持つ東芝には積極的にアプローチしたところ、チャレンジ精神旺盛の両者はたちまち意気投合。東芝をメインスポンサーに据えて「シノツカ・ソーラーカー・チーム」が誕生した。

世界選手権へ

「クルマは生活に欠かせないものだと思っているが、これからは化石燃料を使った従来のクルマに乗ってきた国では、燃料の枯渇や排ガスなどを考えると新しいクルマに乗らざるを得ない。完全なゼロエミッションのソーラーカー技術は今すぐというわけにはいかないだろうが、やらないといけないもの。存在を広くした。」

今年には南ア大会の制覇とギネス記録更新が目標だが、将来への夢は果てしない。「オランダのチームを中心に、ソーラーカーの世界選手権設立の動きがある。F1のように専用ドライバーを転戦するようになった。そのためにも自分のチームを作りたいかった」。最先端の環境技術を争う世界の頂を目指し、篠塚の新しい挑戦が始まった。



シェイクダウン前に入念に打ち合わせをする篠塚(右)と山田監督